

# ヒブワクチン(対象年齢：生後2月以上生後60月に至るまで)

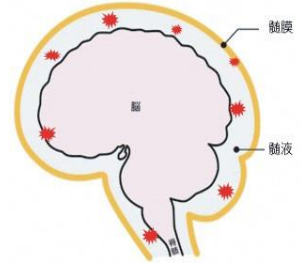
(標準：初回接種開始は生後2月から生後7月に至るまで)

インフルエンザ菌には、表面に**莢膜**を持つ病原性の高い**莢膜株**と、**莢膜**を持たない病原性の弱い**無莢膜株**があります。莢膜型は6つの型に分類され、重症例は主にb型(Hib：ヒブ)のためワクチンとしてこのb型が使われています。ヒブは、細菌性髄膜炎、敗血症、急性喉頭蓋炎、細菌性関節炎などの感染症を引き起こしますが、これらの感染症を発症するのは、お母さんからもらった移行抗体が低下する、2月齢から5歳未満の免疫が未熟な乳幼児です。

## 病気の説明

ヒブは健康な乳幼児の鼻やのどの粘膜から検出されることもありますが、多くは発症しません。しかし、風邪などで鼻やのどに炎症が起きた際に菌が血液の中に入ると、脳障害を起こす細菌性髄膜炎や、呼吸困難になる喉頭蓋炎、細菌性肺炎などを起こすことがあります。

ヒブによる髄膜炎は5歳未満人口10万対7.1～8.3とされ、年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されています。生後4か月～1歳までの乳幼児が過半数を占めています。病気の進行が早いので、ワクチンで予防することが大切です。



## 接種時期と回数

接種開始時期は、お母さんからもらった移行抗体が低下する2月例からが望ましいですが、初回接種の開始時の月齢ごとに以下のとおりです。

|      | 初回接種 (生後12月に至るまでの間)        | 追加接種                             |
|------|----------------------------|----------------------------------|
| 標準   | 生後2月から生後7月に至るまで<br><br>※ ※ | 初回終了後7月から13月までの間に1回接種<br><br>計4回 |
| 標準以外 | 生後7月から生後12月に至るまで<br><br>※  | 初回終了後7月から13月までの間に1回接種<br><br>計3回 |
|      | 生後12月から生後60月               | <br>計1回                          |

※標準接種間隔：27日から56日の間隔

## 副反応と注意点

副反応としては、局所反応が中心で、発赤、腫脹(はれ)、硬結(しこり)、疼痛があります。全身反応は、不機嫌、食思不振、発熱などです。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。